

今回は、3月6日に行われました第6回非歯原性歯痛診断実習セミナーAdvance コースについて
日本大学の野間 昇先生に、報告していただきます。

第6回非歯原性歯痛診断実習セミナーAdvance コース参加報告

日本大学歯学部 口腔診断学講座 野間 昇

第6回非歯原性歯痛診断実習セミナーAdvance コースは、平成28年3月6日(日)に大阪大学歯学部記念会館にて開催された。非歯原性歯痛診断実習セミナーAdvance コースは初めての企画であったが、多数の参加者が参集した。冒頭、企画運営委員長の村岡渡先生より当セミナーの趣旨について説明があり、開始された。



午前の部 司会の村岡先生(左) 講師の大久保先生(右)

午前は、A~F 班の6グループに分かれプレテストから始まり、まず受講者の理解度をチェックした。プレテストの問題は典型的三叉神経痛、一次性、二次性頭痛の診査・診断に関する問題、アミトリプチリン、プレガバリンなどの薬物療法に関する問題について出題された。その後、日本大学松戸歯学部顎咬合機能治療学講座の大久保昌和先生から臨床診断推論実習症例の提示、非歯原性歯痛の診断に必要な頭痛の知識(三叉神経自律神経性頭痛を中心に)について講演頂いた。最初の症例は上顎の歯痛および側頭部の頭痛の症例を提示された。臨床診断推論実習では構造化問診から鑑別診断を挙げ、鑑別診断の確認作業、それに対する検査、問診を行い、鑑別診断の

確かさの見直し、最終診断という流れで行われた。症例の概要が示された後、インストラクターが各グループに配置され、グループ間で活発なディスカッションが行われた。臨床推論を進めるうえで鑑別診断に必要な検査を受講者が求め、インストラクターがその結果を提示するという形式ですべてのグループが最終診断まで行った。最初の症例は、三叉神経痛と三叉神経自律神経性頭痛(TACs)の鑑別を要し、さらに筋筋膜痛(TMD)による頭痛の併存も認めた症例で受講者からは難しい症例ではあるが非常に勉強になったという声が多かった。続いて「国際頭痛分類第3版(ICHD-3β)における Trigeminal Neuralgia」について野間から講義を行った。おもに国際頭痛分類2版(2004年に出版)からICHD-3β(2013年に出版)で変更になった点、脳神経スクリーニングの必要性について講演させていただいた。三叉神経痛と SUNCT の鑑別診断について述べた後、鑑別が困難な場合は ICHD-3β に準じ、両方の診断をつけるよう解説した。

午後は村岡先生から、2症例目の臨床診断推論実習症例として歯痛および痛くて物を咬むことができないという症例が提示された。午前同様、臨床診断推論実習では構造化問診から鑑別診断を挙げ、最終診断という流れで行われた。症例は、有痛性三叉神経ニューロパチーの1つで、最終診断に加え、薬物療法の治療計画についても各グループに検討していただいた。患者が複数の既往歴や全身的合併症を有していることから、薬物療法の立案には主治医にコンサルトを行い、薬剤の選択、用法、用量、副作用なども考慮していくことが求められ、より高度な治療計画を学べるよう工夫されていた。

午前に引き続き、野間から「定量感覚検査の解釈と神経障害性疼痛の診断」について解説を行った。定量感覚検査の解釈に関しては、ビデオで機械的触覚閾値、温冷覚認識閾値、2点弁別閾値などの手順について説明した後、定量感覚検査の必要性、神経障害性疼痛の診断についてはIASPの診断基準に基づ

き症例を提示しながら解説を行った。次に「神経障害性疼痛治療に必要な痛みのメカニズムと臨床薬理学」について日本大学歯学部生理学准教授の篠田雅路先生から講演を頂いた。篠田先生には臨床で使用するNSAIDs、抗てんかん薬、三環系抗うつ薬、オピオイドの作用機序、特に下行抑制系について分かりやすく説明して頂いた。

「神経障害性疼痛の薬物療法の各種ガイドラインの解説」については慶應義塾大学医学部 歯科口腔外科学の和嶋浩一先生より講義を頂いた。神経障害性疼痛の薬物療法にあたって、まずは診断能力を養うことが重要であることを述べられ、NICE、カナダ疼痛学会、日本ペ



午後の部 ポストテスト中の受講者

ンクリニク学会のガイドラインを基に、神経障害性疼痛の薬物療法について説明があった。会場からリリカの使用方法について質問があり、和嶋先生からリリカを増量するポイントについて回答された。総合ディスカッション終了後、ポストテストを行い、本セミナー後の受講者の理解度を再チェックした。多くの受講者がプレテストでできなかった問題もポストテストでは改善されており、セミナーAdvanceコースの有用性を確認できた。

今回のセミナーでは、講師、インストラクターの数が多く、受講者にとってはインストラクターと多くのディスカッションの時間を共有することができ、理想的な環境で学習が行われたように感じた。受講者からは「今日のセミナーは非常に勉強になった」と高評価をいただいた。これに満足せず、講師陣、インストラクターは次年度以降、さらに内容のあるAdvanceコースを企画する必要がある。

日本口腔顔面痛学会 News Letter へのお問い合わせは

「日本口腔顔面痛学会事務局」まで

〒135-0033 東京都江東区深川 2-4-11 一ツ橋印刷株式会社学会事務センター内

TEL: 03-5620-1953, FAX: 03-5620-1960 E-mail: jsop-service@onebridge.co.jp